

四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立朝明中学校
校長 海戸田 恵一

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

保護者及び地域住民が一定の責任を持って学校運営に参画し、学校教育活動の充実に向け、学校、保護者及び地域住民が協働し、「学校づくりビジョン」の実現を図ります。

取組としては、地域理解・地域貢献学習を主軸とし、地域住民との連携を積極的に図って推進し、地域に関わる学習と地域と連携した活動を展開していきます。活動を通して、生徒が地域に対する関心を高め、郷土を愛する心を育むとともに自己の生き方を考える力を一層育んでいきます。

（1）活動内容

- ① 学校訪問、授業や行事の参観等により、教育活動への参画と評価を行い、学校を支援します。
- ② 地域の声を学校へ、教育活動の様子を地域へと情報の橋渡しをします。
- ③ 学校の教育活動を支援するゲストティーチャー等の必要な地域の人材や団体と学校の橋渡しをします。
- ④ 学校自己評価の結果や学校づくりビジョンに対する学校関係者評価をします。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

（1）教育活動の実践事例

① 生徒の活動・学力及び生活実態を把握する

本年度は運営協議会を4回開催しました。第1回運営協議会では、校長より学校づくりビジョンや年間計画、学校の取組、生徒の様子等を説明した後、各委員の方に、授業を参観していただき、ご意見を伺いました。

2学期の第2回運営協議会は体育祭を観覧していただき、ご意見をいただきました。教室では見られない活気にあふれる生徒の様子を見ていただくことができました。第3回運営協議会は八郷小と大矢知興譲小の3校合同で開催しました。各校の委員の方たちと朝明中学校校区として話し合いを持つことができ、大変意義の深い会議となりました。本校の生徒の様子を参観いただいた他、地域の交通安全の事情や、子どもたちと地域の方とのあいさつの様子などを確認する場になりました。歴史を重ねているコミュニティスクールの活動が、この交流を通じてますます盛んになり、子どもたちを支える力になれるといいという意見がありました。

3学期の第4回運営協議会では、本年度の学校評価や活動報告、次年度の活動計画についてご意見を伺いました。落ち着いた学習環境や生徒の様子に対する高い評価とともに改善に向けたご助言をいただきました。



② 地域の教育力を生かした特色ある教育活動

コロナ禍ではありましたが、総合的な学習の時間を軸にして、各学年で工夫しながら、地域の力と人材を生かしたさまざまな学習活動を行いました。コミュニティスクールの取組も定着し、昨年度まで縮小していた地域学習についても徐々に可能などころから実施していきました。

以下に列挙します。

<1年生>

- ・ 専門家を招いた「くるべ古代歴史講座」
- ・ 北消防署分署を訪ねての防災学習・ 地域の方を招いた防災教室



<2年生>

- ・ 「マナー講座」
 - ・ 「その道のプロに学ぶ」
- 職業体験前の学習として、事業所の方に来ていただき、講話形式・簡単な体験形式での講座を実施



<3年生>

- ・ 地域清掃活動（県道64号、北勢バイパスの清掃活動）を実施



③ 学習発表会

今年度は、学年別に総合的な学習の時間等で取り組んだ内容についての発表会を行いました。

1年生は、地域理解学習で学んだ施設の見学や「くるべ古代歴史講座」のまとめについて、代表が発表しました。

2年生は、2学期の「職場体験学習」で学んだことについて、グループによる実演なども交えながら、発表しました。

3年生は、人権作文の発表と「私の答辞」の発表会を実施しました。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

新型コロナの影響で地域行事や各種の訪問・参加の機会が激減していましたが、今年度より徐々に緩和傾向となり、可能な限り生徒が地域に出て活動し、地域行事に参加できるようになりました。

また、昨年度まで新型コロナ対応策として、実施してきたさまざまな立場の方の講演会についても、今年度も継続して行うことができ、生徒や保護者から好評を得ることができました。

2学期末に取った学校自己評価の集計結果では、【特色ある教育課程の編成】の「総合的な学習の時間や行事等は特色ある教育活動を行っている（生徒：興味や関心を持って取り組める）」の設問で、生徒が3.5ポイント（昨年度と同じ）、保護者が3.2ポイント（昨年度と同じ）と引き続き高い評価を得ました。

また、【保護者や地域の人たちとの連携】の項目では、生徒が3.4ポイント（昨年度より0.2ポイント上昇）、保護者が3.3ポイント（昨年度より0.1ポイント上昇）と生徒・保護者ともに昨年度より上昇し、引き続き高い評価を得ました。

さらに【情報受信の努力】は保護者が3.2ポイントと昨年度より0.1ポイント低くなったもののコロナ禍において学校が可能な限り努力をしているとの評価をいただきました。

コロナ禍となって3年が過ぎようとしています。学校教育に対する信頼は保たれているようです。しかし、現状に甘んじることなく、今後も、地域の方々や保護者の皆様と地域に根差した教育の充実のためにさまざまな取り組みを推進していきたいと思えます。

3 今後に向けて

(1) 生徒の現状から見える課題

運営協議会の委員のみなさんから、「生徒たちの元気いっばいの姿が見られるのがうれしい。先生方との関係も良好だと感じる。」「体育祭では応援している生徒たちの態度が非常にいい。がんばる姿を見てうれしくなりました。」といったお褒めの言葉をいただきました。

一方、課題としては、協議会の中で「授業で話し合い活動が少なく、残念で寂しい。思うように活動が行えないのではないか。」や「地域や保護者の方からよく中学生の自転車の安全意識が低いということを聞く」との話題が出ました。

今後の新型コロナの様子を見ながら、再開可能な活動を積極的にすすめていくことで、活力あふれた学校をつくっていくことは今後目指すべき方向であると考えます。また、安心安全な学校にしていくために、大きな課題の一つである自転車の安全マナーの徹底に向け、地域とともに今後の方法を模索していく必要があります。

(2) 地域とともにある学校づくりの推進

今年度も校区内の3校合同で運営協議会を開催することができ、地域全体で、どのような学校づくりを目指すかを考えていく良い機会となりました。

今後もコミュニティスクール運営協議会を中心に、学校が抱える複雑化・困難化した課題解決

を目指し、子どもたちの生きる力を育むために、地域住民と協力していきます。そして、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」を目指し、コミュニティ・スクール運営協議会を一層推進していきたいと思ひます。